

みらい教甲第586号

平成29年8月21日

つくばみらい市立三島小学校
PTA会長 横田 透 様

つくばみらい市教育委員会
教育長 福田 敏 男

三島小学校統廃合に関するアンケート結果及びつくばみらい市への要望について（回答）

晩夏の候、貴殿におかれましては、益々御清祥のこととお慶び申し上げます。

さて、平成29年6月30日に御提出いただきました標題の件については、別紙のとおり回答いたします。

回答内容については、アンケート結果の文面から御質問と判断させていただいた内容について回答させていただくとともに、重複した質問内容については、割愛させていただきましたので、何卒ご容赦願います。

なお、御質問と判断させていただいた内容以外の部分につきましては、全て御要望として承りたいと存じます。

今後とも、市教育行政及び学校運営に関しまして、特段の御理解、御協力を賜りますようお願い申し上げます。

【お問い合わせ先】

つくばみらい市福田195番地

つくばみらい市教育委員会学校教育課総務係

T E L 0297-58-2111（内線 7104）

F A X 0297-58-5711

E-mail gakkou01@city.tsukubamirai.lg.jp

(別紙)

三島小学校統廃合に関するアンケート結果及びつくばみらい市への要望について

適正配置に関する質問

Q：来年度15名入学予定により複式学級は減りますがそれでも統合するのか。

A：既存地区の人口減少とともに児童生徒数も減少傾向にあり、複式学級も発生している状況です。今後も、既存地域では、児童生徒数の減少が続くことが予想されており、複式学級の増加が見込まれます。

小規模校では、きめ細やかな指導が行いやすいなどのメリットがある一方で、クラス替えができない、球技や合唱・合奏のような集団学習に制約が生じるなどの課題も挙げられています。

また、少人数学級に関する調査研究内容が発表され、茨城県教育委員会でも推進されておりますが、少人数学級の効果を最大限発揮するためには、同学年で単式学級が複数あることで、教育効果が高まると考えます。

教育委員会としましては小規模校における学校運営上の課題や、それらの課題があたえる児童への影響を最小限にし、子どもたちのより良い教育環境を提供していくことを第一に考え、小規模校の解消に取り組みながら、公立学校として必要な教育環境の整備・充実を図ってまいりたいと考えております。

○三島小学校年度別新一年生推計（平成29年5月時点推計）

年 度	平成29年度 (実績)	平成30年度	平成31年度	平成32年度	平成33年度	平成34年度
新一年生 推計入学者数	8	15	9	8	10	7

○別添資料 ・学校再編により期待する教育効果
・学級規模の変遷・学級規模に関する研究結果

Q：最初聞いた時は平成30年だったような気がするが、現在平成32年になっている。今でも統廃合を目指しているようだが、なぜはっきりと決まっていないのか。

A：平成27年12月20日（日）に実施したつくばみらい市義務教育施設適正配置計画（案）の説明会では、「再編後の小学校別将来児童数の推移（推計）」として、平成30年・平成35年・平成40年と5年おきの児童数とクラス数を示した表を提示させていただきました。これは便宜上5年おきの推移を示しているものであり、平成30年から

再編するという意味ではありません。

「つくばみらい市義務教育施設適正配置基本計画」では、適正配置の時期について次のように記しており、意見交換会の状況や統合委員会・統合準備委員会等の進捗状況によっては再編の時期が遅くなる可能性もあります。

(つくばみらい市義務教育施設適正配置基本計画 抜粋)

市全域の義務教育施設の適正配置を進めるためには、ある程度の期間が必要と考えられ、実施にあたっては、複式学級が発生している小学校、または発生が予想される小学校について優先して行っていくなど、教育環境の早期是正に向けて計画的に実施していきます。

なお、再編の目標年次は、全体では平成35年までの完了を目途として進めていくこととする一方、個別については、地域の合意が得られたところから順次進めていくこととします。

Q：ここ数年の統廃合に関する行政を含めた意見交換会等に関する一連の情報を開示していただきその経緯を丁寧に説明してほしい。

A：市ホームページの教育委員会のページにおいて「市立小学校適正配置」を提供しております。(https://www.city.tsukubamirai.lg.jp/viewer/genre3.html?id=910)

ここでは、「つくばみらい市立小学校の適正配置（統廃合）に関する意見交換会（平成29年度）」、「つくばみらい市義務教育施設適正配置基本計画だより」や「学校の統廃合に関する取り組み」など、意見交換の内容や適正配置審議会における議論の内容を公開しておりますので、是非ご覧ください。

Q：戸茂，戸崎等伊奈東中学校区の在校生への対応はどうするのか。（既に三島小へ入学しているのに谷井田小との統合後の小学校ではなく東・板橋小の統合校へ転校するのか）

A：「つくばみらい市義務教育施設適正配置基本計画」においては、既存の学校区を基本として計画しています。

三島小学校区においては、中学校区が伊奈中学校と伊奈東中学校の両校に属することから、学校再編が具体化する段階で、三島小学校区における中学校区について決定してまいりたいと考えております。

Q：三島・谷井田・豊の3校というのも疑問であり，三島・谷井田で良いと思う。

A：市内全ての子供たちの教育環境をいかに改善するかについて，平成26年11月27日，平成27年6月11日，平成27年7月14日の審議会で次のような内容が検討・協議され，義務教育施設適正配置基本計画が策定されました。

①学校再編後の学校数

⇒適正規模基準を考慮した学校規模・学校数とする。

②学校再編の方法

⇒段階的な学校再編は再編による転校が複数回になることから，児童の心的負担に配慮し，学校再編に伴う転校回数は，原則1回とする。

③学区の見直しや学校選択制

⇒児童は物ではないので，既存校の学区を分断することなく，児童の心的負担に配慮し，再編は既存校の学区を基本とする。

④中学校区を踏まえた学校再編

⇒中学校への進学や小中一貫教育を踏まえ，適正規模となる小中学校をバランスよく配置する。

⑤児童生徒の教育環境の改善

⇒児童生徒が未来社会を切り拓くための資質・能力をより一層，確実に育成する教育環境の向上を図る。

これらの検討を踏まえて，三島・谷井田・豊の3校再編が望ましいという結論に至りました。

通学方法等に関する質問

Q：今後歩道が整備されるのか，スクールバスによる通学になるのか，それ以外の策を考えているのか非常に気になる。

A：「つくばみらい市義務教育施設適正配置基本計画」では，小学校の学校再編に伴う遠距離通学への対応として

・通学路の指定にあたっては，通学路の整備状況について現状確認を行うとともに，地域の実情等を勘案しながら通学路の安全確保策に努め，通学環境の充実を図ること

・校区が広域となる学校区においては，現行の市で実施している通学支援に関する距離基準（小学校：3km以上）を前提に，スクールバスや路線バス等の活用による通学支援施策が実施できるよう地域の実情等を勘案しながら児童生徒の負担が最小限となる

よう取り組むこと

を記載しています。これらの内容を基本としながら、進めてまいりたいと思います。

Q：統廃合することで気になる点は通学手段です。統合した場合にはこうなると、ある程度具体的な案を示してほしいです。

A：スクールバスのルートや乗降場所（バス停）などについて、今後、通学手段の案を提示させていただきます。

Q：三島小学校に集合して移動か。各停留所を設けるのか。

A：スクールバスを運行した場合の乗降場所（バス停）については、地区などを考慮し、児童がまとまって安全に乗降できる場所を想定しています。

Q：谷井田小の児童で路線バスを利用している地区もある。山王新田も路線バス対象となるのか。

A：既存の路線バスを利用した通学については、スクールバスを運行した場合のルートや乗降場所（バス停）の位置などによって、その対応も変わるのではないかと思います。
通学方法については、スクールバスの運行や路線バスの利用、徒歩通学など、幅広く検討してまいりたいと考えております。

Q：スクールバスの場合料金をとるのか。

A：スクールバスの利用負担金は、スクールバスの運行経費やスクールバスを利用する児童と利用しない児童の公平性なども考慮し、できる限り利用者負担を発生させない方向で検討したいと考えております。

跡地利用に関する質問

Q：統合後、三島小学校はどのように市または民間などで使用するのか。

A：跡地利用については「つくばみらい市義務教育施設適正配置基本計画」においても、
“学校が地域で果たしてきた歴史的役割や地域事情にも配慮し、学校施設の利活用にあたっては、地域の意見や要望を聞きながら、市の各種計画と整合性を図りつつ、有効活用することを前提に検討を行っていきます。”と記載しております。

学校施設は、耐震化と大規模改修を行っており、市の財産として行政での活用について、調査・検討しているところです。

どこの学校で、どのような事業を行うかについては、学校再編の時期が見えてこなければ、具体的な検討を行うことは難しいと考えます。

今後は、市長部局が主導となり、施設の用途を決定してまいります。

学校再編による児童心理等に関する質問

Q：合同授業などいつまでにどのような形で進めていくのか、具体的なプラン（予定）があれば知りたい。

A：合同授業など交流事業については、まだ未定であります。児童や保護者がお互いに自然と打ち解けあうことができるよう、再編時期に近くなればなるほど、その頻度や交流のレベルを高めていくような流れで進めていきたいと考えております。

他の自治体では下記のような交流事業が実施されています。

（児童同士の交流事業の例）

- ・ 合同給食：交流給食会の実施
- ・ 合同授業：総合的な学習の時間の交流（体験活動等の授業）
- ・ 校外学習：修学旅行・宿泊学習・工場見学・クリーンセンター見学等
- ・ スポーツレクリエーション・文化活動：交流体育授業等の合同開催

（PTAの交流事業の例）

- ・ PTAとの合同事業：PTA活動後の役員同士の顔合せ。
- ・ 児童の合同事業と連携したPTA事業：PTAの合同研修会を開催

上記のような他自治体で実施している事業の事例を研究したうえで、相互の学校において交流事業を進めていきたいと考えております。

Q：不安な点は、新しい学校に子供が溶け込めるかである。

A：新たな学校への再編により、「新しい学校になじめるか?」、「友達はすぐにできるか?」など、児童も保護者も不安があると思います。

学校再編には、学校再編前後において次のような対策を考えております。

(再編前の配慮事項)

前述のとおり、学校再編までに子どもたちが新しい学校で仲良く、切磋琢磨しながら学習や学校行事等を行えるようにするため、事前交流を図るなどの対応が重要と考えております。

- ・児童たちの事前の交流事業 など

(再編後の配慮)

教育活動や学校運営を円滑に再編後の学校へ移行し、学校再編による児童や保護者の不安を解消する上で、教員の配置やクラス編制などへの配慮が重要と考えております。

- ・学校再編前の教員を再編校に配置すること等の配慮
- ・スクールカウンセラーの配置等の配慮
- ・児童に対するアンケート調査（学校生活・授業・友だち関係について）の実施など児童の心の状態の把握
- ・教員の加配による配置等の配慮 など

その他

Q：統合に係る費用は市が全て負担してくれるのか。私たちが負担する部分があるのかということについて知りたい。

A：学校再編によって想定される費用は、スクールバス、体操服、上履きなどが考えられます。

スクールバスについては、前述のとおりです。また、体操服などについては、再編前後において、既存の体操服と新たな体操服の両方を使用できるようにするなどの工夫により、学校再編による直接的な費用負担は軽減できるのではないかと思います。

再編に係る費用負担については、できる限り発生しないように検討したいと考えております。

Q：谷井田小学校の保護者の方は統廃合に賛成しているのか。

A：谷井田小学校との話し合いについては、過去2回の説明会を実施しており、平成27年12月3日（木）に実施したつくばみらい市義務教育施設適正配置基本計画（案）の説明会では27名の参加、平成29年1月17日（火）の意見交換会では6名の参加がありました。

意見交換会では以下のような意見が出ておりますが、明確な反対の意見はありませんでした。

（平成29年1月17日（火）の意見交換会における主な意見）

- ・再編に向けて実際には何をどうしたらいいのかが見えない。そういった意味でどういう対応（交流の機会など）をしているのか、他の自治体を例に具体的に示してもらいたい。
- ・どの様な交通手段で子ども達が通うことになるのかが皆さん一番心配されているところである。安心して通えるような手段を早めにきちんと示してしてもらえればと思う。
- ・今後どうなるのか、経過などの細かい情報は、より多く、早く、出してもらいたい。
- ・どんなタイミングで再編を決定していくのか。

Q：3つの小学校の統合ですが、豊小学校PTAで反対という意見が出ているのを聞いたことがあります。平成32年まで反対が続いた場合、統合がなくなるのか、2校で統合するのか疑問です。

A：市義務教育施設適正配置審議会において、「3校が同時に再編する方式」と「最初に2校が再編し、後からもう1校が再編するような2段階による再編方式」の2つの方法について検討されました。

その中で「在学中に複数回の再編が行われることのないよう児童の心理的負担に配慮すべき」との意見があり、基本的には「3校が同時に再編する方式」が望ましいとの結論に至りました。

しかし、教育委員会としましては「3校同時再編方式」において課題が大きい場合は、「複式学級の発生の解消」を優先し、2校による再編もあり得ると考えており、これらの「再編方式」については、意見交換会などの状況を見極めながら方向性を定めていきたいと考えております。

また、平成32年に再編というのは、目標として計画しており、当市での学校再編は、一つひとつ課題をクリアしていきながら進めていきたいと考えておりますので、実際の再編時期は、その進捗状況によって前後することもあると考えております。